

子供たちに伝えたい日本のよさ

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」 世界文化遺産登録決定！

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県）・山口県を中心に、静岡県や岩手県を含む8県11市に分散して立地しています。相互に密接な関連性があり、遺産群全体で一つの資産として、平成27年7月8日に世界文化遺産に登録されました。

【構成資産】



【三池炭鉱宮原坑（大牟田市）】



【旧グラバー住宅（長崎市）】

【このような場面での活用が考えられます。】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供やまとめの説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等

— 今月のテーマ — — 特筆すべき近代化 —

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から西洋以外の国への産業化の移転が成功したことを証言する産業遺産群により構成されています。19世紀後半から20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を構築し、後に日本の基幹産業となる造船、製鉄・製鋼、石炭などの重工業において急速な産業化を成し遂げました。

【産業化の発展段階】

①試行錯誤の挑戦

産業化の歩みは、各藩（薩摩藩、佐賀藩、長州藩など）や幕府による、オランダの書物を手本にした試行錯誤での鉄製大砲製造への挑戦や、洋式船の模倣から始まりました。

②西洋技術の直接的導入

西洋の技術が導入され、蒸気機関を利用した洋式炭鉱、洋式船架等が建設されました。また、これらの設備を操業するための専門的な知識も習得されました。

③産業化の完成

明治の後期には、人材が育成され、国内の需要や社会的な伝統に合った西洋技術を積極的に導入し、我が国の産業化が完成しました。

このように、日本は西洋以外の国で初めて産業革命の波を受け止め、僅か50年程の間に、自らの力で産業化を実現しました。

明治日本の産業革命遺産は、世界の歴史の中でも特筆すべき近代化を示す遺産群です。



【官営八幡製鉄所旧本事務所】

※一般には非公開の施設です
(写真提供)

新日鐵住金(株)八幡製鐵所

★都立多摩図書館では、以下の関連書籍を読むことができます。

『近代の史跡 史跡で読む日本の歴史 10』（吉川弘文館 2010）

『長崎グラバー邸父子二代』山口由美著（集英社 2010）

『山本作兵衛と炭鉱の記録』コロナ・ブックス編集部編

作兵衛事務所協力（平凡社 2014）

『産業遺産』日刊工業新聞編（日刊工業新聞社 2010）

『日本の産業遺産図鑑』二村悟著（平凡社 2014）

『実伝江川太郎左衛門』仲田正之著（鳥影社 2010）

日本の伝統・文化紹介

【祭りと音楽】

祭りになくてはならない音楽として、祭囃子（まつりばやし）があります。

全国的には、山鉾（やまぼこ）の上で太鼓や鼓、鉦（かね）、笛などで演奏される京都の祇園囃子が有名ですが、東京近辺にも伝統的な祭囃子が継承・発展されてきています。

なかでも、「葛西囃子」や「神田囃子」は有名です。これらは天下祭（神田祭と山王祭）に加わるようになって発展し、山車の流行とともに各地に伝わったといわれています。明治初期には、歌や踊りの入らない演奏のみの素囃子（すばやし）なども整えられました。



【神幸祭の鳳輦（ほうれん）神輿】
（神田祭）

例えば、神田囃子の場合、楽器の編成は篠笛（1人）、締め太鼓（2人）、大太鼓（1人）、鉦（かね）（1人）の五人囃子となっています。

江東区深川の木場では、水上の角材に乗って曲芸を披露する「角乗（かくのり）」が伝承されていますが、そこでは、半纏（はんてん）を着た演者が、葛西囃子に合わせて演技を行います。

特色ある取組

【武蔵野市立関前南小学校】

「関前場所」



「関前場所」とは？

1年生から6年生まで全校児童が力士となり、東西2チームに分かれて試合をします。拓殖大学の相撲部による模範演技（四股、股割）や模範取組も行われます。

小学校の設備としては珍しく、校庭に整備された子供相撲用の土俵を活用しています。「相撲」を通して、体力向上を図るとともに、「礼」を大切にするなど、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を学ぶ機会として、大切な取組です。



伝統・文化に関するイベント等

★都立中央図書館

○ 企画展示「大海を渡れ！-留学いま・むかし-」

☆ 平成27年9月10日（木）から10月25日（日）まで（午前10時から午後5時30分まで（金曜日は午前10時から午後8時まで））

☆ 4階企画展示室

【休館日 9月18日（金）・10月1日（木）・10月18日（日）】

古代から近代までの日本の留学生の足跡・偉業や、彼らがもたらしたものを紹介する企画展示を実施します。空海が留学先の唐から持ち帰ったとされる『三教不斉論（さんぎょうふせいろん）』を書き写した江戸期の貴重な写本（当館蔵書）や「明治の三書」（『西洋事情』『西国立志編』『輿地誌略（よちしりゃく）』）の原本のほか、岩倉使節団、森鷗外、夏目漱石らの留学事情を関連資料とともに展示します。また、現代の留学者数の推移等をパネルで紹介するとともに、海外留学支援制度などの各種事業を掲載したパンフレットを配布します。



○ ミニ展示—2020年へ向けての応援シリーズ

「リオ五輪に向けて！ 世界陸上北京」

☆ 平成27年9月30日（水）まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室入口

2016年リオデジャネイロオリンピック開会式まで1年を切りました！オリンピックを前に、今月8月22日（土）から8月30日（日）まで、世界陸上競技選手権大会（世界陸上）が、中国の北京で開催されます。今大会の個人種目を8位以内で入賞した日本人最上位

の男女各1名の選手は、リオ五輪に条件付きで内定します。大会に関連し、陸上に関する資料や、世界陸上に出場する注目の陸上選手を雑誌で紹介していますので、是非お立ち寄りください。



○ ミニ展示「あの日、あの時、あの時代」

☆ 平成27年9月30日（水）まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室

第二次世界大戦の終戦から今年で70年を迎えることから、大戦中や戦後の復興に関わる資料を展示しています。当時の日本の様子等を写真集などで御覧いただけます。

○ 2階トピック展示・3階美術情報コーナー棚展示「ル・コルビュジエの建築」

☆ 平成27年9月30日（水）まで

☆ 2階社会・自然科学系資料・閲覧室及び、3階人文科学系資料・閲覧室

現在、フランス政府が中心となり、建築家ル・コルビュジエが設計した関係7カ国（フランス・スイス・ドイツ・ベルギー・日本・アルゼンチン・インド）に点在する代表的な建築作品を、一括してユネスコの世界遺産リストに登録する計画が進められています。我が国からは国立西洋美術館本館がエントリーされており、登録への期待が高まります。

2階トピック展示ではコルビュジエとその建築について、3階美術情報コーナーでは国立西洋美術館を中心に資料を御紹介します。



※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869